

優秀賞

一般建築物の部

建築主：医療法人社団中郷会新柏クリニック
設計：株式会社 竹中工務店
施工：株式会社 竹中工務店
所在地：柏市新柏1丁目7番地

くつろげる透析空間を大型木造で

新柏クリニック



奥深い庇が端正な佇まいを見せる外観

総ベッド数120床の透析専門の診療所である。国内で30万人ほどいるとされている透析患者は、週3回4-5時間程度透析を受ける必要があり、かなりの時間を透析室で過ごす。このクリニックでは、少しでも負担にならないように透析室環境に様々な工夫を凝らしている。本クリニックは、新柏駅に近接する一方、手賀沼に注ぐ大津川支流の市街化調整区域に隣接しており、水源地に近い。恵まれた周辺の自然環境から着想し、森林浴気分になれる空間デザインを目指した。ガラス越しに周りの木々が見え、春には桜が楽しめる。木質建材を豊富に使うことで木の香りが漂い、木と緑に包まれた透析室を実現している。

2層にわたる透析室部分には、耐火集成材の門型フレームが4m間隔で13個並び、これが主構造となっている。ずらっと並んだベッドと相まって、反復して連続する空間を強く印象づけている。これまで、学校や病院などの公共施設では、木のぬくもりを活



緑の景色を楽しめる透析室

かした建築をつくろうとしても法的に制約が多かった。諸外国ではCLT材を用いた高層の建物がすでに出現しつつあり、木造の伝統を持つ日本が、次世代木造建築では遅れをとった状態だった。2010年に公共建築物等木材利用促進法が制定され、国内の森林資源を活用した耐火木材開発への追い風となった。木造の復権は、建材としての木の見直しにとどまらないはずである。このクリニックのように木材を主構造に用いたハイグレードな建築物が増えることで、建築生産システム自体が、これまでの需要先導型から大きく転換して、循環型の構築生態系化していくことに期待したい。

(岡部 明子)



木のぬくもりを醸し出す夜景

(撮影/ ㈱エスエス 東京支店 島尾 望)